

K F Cと尚絅学院大がつくる名取のメディア

## ハナモモ通信

2018年 4月



ハナモモちゃん

【発行】  
河北新報普及センター  
【協力】  
尚絅学院大 河北仙阪  
【エリア】名取市内  
【部数】11,600部  
【電話】022(266)2991

## 春の高館山を満喫

## カタクリまつり開催

4月14日、名取市高館山の高館山自然レクリエーション施設で「カタクリまつり」が開催されました。

高館山の魅力を発信することを目的に那智が丘公民館主催で行われるこのまつりは昨年に続き2回目を迎えます。

毎年4月上旬になると高館山は一面カタクリの花が

咲き、地元では「カタクリ山」と呼ぶ人もいるそうです。

今年、新たに地域住民により結成された市民団体「那智カタクリの里を育てる会」共催のもと前回よりパワーアップし、市内外から多くの方が参加し賑わいを見せました。

行われたガイドツアーでは散策路を歩きながらカタクリをはじめ、周辺に自生する山野草の説明が行われ、参加者はメモを取ったり写真撮影をしたりと大変興味深く学んでいました。自由散策では会が作成したマップを頼りにカタクリの群生地や散策路を歩いて思い思いに春の山を楽しみました。

泉区から参加した女性は

「カタクリが一面に咲く様はスケールが大きい。こゝでしか見られない植物もあった、ぜひまた来たい」と話しました。同じく泉区から参加のご夫婦は「里山を歩くのは懐かしい思いがある。これだけ多くのカタクリが咲いているのは素晴らしい」と話してくれました。

ガイドツアーの様子



ガイドツアーの様子

また昨年、公民館内に設置した出店コーナーは、今回から憩の広場に場所を移し、「ポストカード」や「ばっけ味噌」の販売に加え食べ物メニューも増え、参加者は自然に囲まれた解放感のなか「羊煮」、「玉こんに」、「抹茶」や「団子」に舌鼓を打ちました。

育てる会の活動は名取市市制60周年記念市民提案事業の一つとして採択され、今後カタクリ群生地に木道の散策コースが整備される予定があるそうです。



カタクリの花

●山田司郎名取市長  
「団地の近くにこのような豊かな自然があるのは名取の宝。地域をよりよくしようと住民の方々が具体的に行動していて素晴らしい」

●馬場文雄那智カタクリの里を育てる会会長  
「那智が丘町内のみならず仙台南郊からも多くの方に参加頂き、これからの活動に弾みがつく。これからも地域の財産として育てていき、名高い名所としていきたい」

●木下末也公民館館長  
「今年は開花が早かったがカタクリの花ももってくれて大成功。多くの人に来てもらえた。地域の皆さんにも協力頂き感謝します。来年度以降も恒例行事として続けていき那智が丘のブランドとしていきたい」

今後更に盛り上がるイベント

## 名取市市制60周年記念

## ロゴマーク・キャッチフレーズ

名取市は平成30年10月1日に市制60周年を迎えます。

この大きな節目を市全体でお祝いするため、平成30年度の1年間を通して「市制施行60周年記念事業」が行われます。

市制施行60周年を市内外に広くPRするために、名取市と包括連携協定を結んでいる尚絅学院大学及び仙台高等専門学校の学生で組織するプロジェクトチームが、ロゴマークとキャッチフレーズを作成しました。



◎キャッチフレーズコンテスト

還暦を迎えた名取を、「め

等のイベントも催しており気軽に自然を楽しめますので一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

今後のイベント等詳しくは、那智が丘公民館まで。TEL022(386)6266

かしさ、今の思い、明日への希望を感じ取り、また、人と人との新たな「つながり」が生まれ、新たな名取の未来につながる年になるよう期待し、このキャッチフレーズが作成されました。

◎ロゴマークコンテスト  
トリのモチーフは、市の名前である「な」とり」から着想を得ており、トリが空を羽ばたきながら優雅に街全体を見渡す様子が、未来へ羽ばたく名取の希望となるようお願いを込めます。また、ヒナを連想させる黄色いトリのデザインは、六〇年(還暦)を機に名取が生まれ変わり新たなまちへと成長していくことを表現しているそうです。



# 名取産食べ隊

ハナモモ記者が行く

牛たん炭焼利久 名取店

## 牛たん絶品 海鮮も魅力



今回は、宮城県で知らない人はいないと言える有名店、名取市田高の県道258号線沿いに店を構える「牛たん炭焼利久 名取店」をご紹介します。利久と言えば、なんといっても牛たん。噛めば噛むほど味が出る牛たんは、炭火で丁寧に1つ1つ焼き上げています。名取店限定の特別定食には、牛たん焼きと特製牛たんステーキが付いて、ランチが1480円と大満足のお値段（夜は1650円）。さらに、名取市を中心に牛たん弁当の配達もしており、自宅や勤務先でもおいしい牛たんを味わうことができます。

名取店では牛たん以外のメニューにも力を入れています。毎朝仕入れる新鮮な海の幸はお刺身でいただくことができ、特におすすめのメニューはランチタイム限定のオリジナル海鮮丼。これでもか！とお刺身がのった海鮮丼に牛たん焼きが付いた豪華なランチは10食限定で1580円とこちらも大変お得。店長の安達さんは「利久は牛たんのイメージが強いが、海鮮など様々なメニューを取り揃えていることを知ってほしい」と話していました。

利久グループは今年30周年を迎える記念の年です。北は北海道、南は鹿児島まで店舗を拡大している利久ですが、安達さんはアットホームな店づくりに取り組んでいきたいと話します。今年11月でオープンから12年となる名取店では、常連さんが来店すると「おかえりなさい」と出迎えるそうです。「お客様が心からくつろぐことができ、名取店の店員に会いにきてくれるような店にしたい」と安達さん。ぜひ、おいしい牛たんと海鮮を心から味わいに足を運んでみてください。

牛たん炭焼利久 名取店

営業：11:30～15:00 ラストオーダー14:30  
17:00～23:00 ラストオーダー22:30

定休日：なし 名取市田高字南9-1 ☎022-381-1035 ※記載の価格には別途消費税がかかります。



熊野堂十二神鹿踊りの説明をする鈴木さん（右）



本殿（奥の院）の説明をする伊藤さん



熊野堂神楽について説明する黒田さん

ボランテアガイド始動  
熊野三社で春の例祭

4月8日・15日、名取市観光ボランティアガイドの会（仮称）が熊野本宮社・熊野神社で無料ガイド案内を開催しました。

この企画は、熊野本宮社・熊野神社の春例祭で熊野堂十二神鹿踊（熊野本宮社）、熊野堂神楽・舞楽（県指定無形民俗文化財）の奉納に合わせて行われ、今回が初めての試みになります。

8日、熊野本宮社には50人を超える方々が集まりました。ボランティアガイドで公民館などでも講座を開く郷土歴史家の鈴木次郎さん（78）が、本宮社の創建、紀伊の熊野本宮との関係や立地について詳しく説明しました。

当日親子で参加した、野崎理恵子さんと娘の真優希さん（小5）「近くに住んでいても、知らないことはたくさんある。このような

会は楽しくとても勉強になる」と真優希さんが話してくれました。

15日、熊野神社には100人近くが訪れました。名取熊野三社の成立に関わりのある名取老女や全国に3000以上ある熊野神社の中で唯一、紀州熊野三社と同様に三社が独立して存在すること、その位置関係が同じであることなどが説明されました。また、当日は一般の方は入ることができない本殿（奥の院）を開放、訪れた人たちの喜ばせました。

ボランティアガイドで熊野神社総代の伊藤茂志さん（62）は「今までは転勤が多く、地元のことにかかわることができなかった地元元の勉強をして地域に貢献していきたい」と話しました。同じく黒田正志さん（79）は、「このような説



熊野堂神楽



熊野堂舞楽

明会に来られる方は、とても勉強している。私は今は大まかなことしか説明できないが、もっと掘り下げた情報を伝えていきたい」と今後の抱負を述べました。

ボランテアガイドの会には現在20人を超えるガイドが登録をしておいて秋の例祭での企画も検討されています。